

2021年度まちスポ仙台助成金 採択団体の紹介

■団体について／こども・スポーツネットワーク

団体名:こども・スポーツネットワーク

設立年:令和2年7月

スタッフ:7名

普段の活動について:

- ・U15 バスケットボール教室
(長命ヶ丘小学校体育館など)
スペシャルオリンピックス
宮城代表コーチ
- ・生活困窮者への食材配送
- ・子ども食堂開催



■申請事業について／子ども食堂

【課題】

- ・生活困窮者や家庭の問題を地域ぐるみで検討できる体制の構築
- ・子ども食堂の定期開催
- ・社会貢献活動(子ども食堂)にSDGsを取り込み、ビジネスを通じた社会的課題の解決を目指す企業などとの連携により地域内の循環型経済の進展を目指す

【アクション】

- ・子ども食堂を通じ、貧困家庭・コロナ禍で苦しむ家庭の子どもへ無償で食材を提供する。

→パントリー形式で親子を中心に実施。
毎回40組以上の提供ができた

→ポッチャ、ひもトレ体験コーナーや元小学校長による子育て相談も実施

【事業概要】

- ・子ども食堂の開催／参加料無料
- 月1回、まちスポ仙台にて開催
- 月2回、みやぎ生協国見ヶ丘店内にて開催
- ・共催団体／長命ヶ丘よぐする会
- ・支援団体／ふうどばんく東北AGAIN、みやぎ生協、仙台89ERS、社会福祉協議会

【事業の成果】

・外部／食材をもらうだけでなく周囲との協力が求められるため、自然と当事者意識が生まれた。近所で顔見知りではあったものの、実際に会話したことがない方々との交流の場になった。

・内部／子ども達が初めての出会いの中でも、課題解決、合意形成、学習などを行なう「場」であるという効果が見られた。「イベント型子ども食堂」がいじめ問題や孤食の解消に活かせるコンテンツになり得ると実感できた。

2021年度まちスポ仙台助成金 採択団体の紹介

■団体について／ママの未来塾

団体名：ママの未来塾

設立年：2021年

スタッフ：4名

普段の活動について：

これから起業しようと思っているママ、すでに起業しているけれどもっと発展させたいママ、ビジネスをしている人との繋がりが欲しいママ、自分のステージアップを図りたいママなどが集い、自分の想いを形にしていく場です。

個人起業についての基礎を学ぶこと、個人起業家同士の交流を図ることを目的としています。月に一度、起業やビジネスについての勉強会と交流会を行なっています。



■申請事業について／夕方ママここホットステーション

【課題】

子育てが辛いと感じる時間帯である、夕方から夜間にかけて利用できる子育て支援室が仙台には無く、ママの逃げ場がない。

【アクション】

- ・保育士による見守り託児
- ・親子食堂による食事提供
- ・親子で楽しめるアトラクション（ギターとフルーツによるミニコンサート）
- ・ママのおしゃべりタイム

【事業概要】

- ・夕方ママここホットステーションの開催／参加料1家庭2,000円
- ・協賛、協力団体／
温活サロンChiara、ルピナスミュージック、いつも楽しいbreakthrough、プロテア、Aoba Violin Class、学研西山アクティブ教室など
- ・参加者延べ24名

【事業の成果】

- ・外部／定期的に開催してほしい！という声から多数寄せられた。参加者同士に新たな繋がりが生まれ、子どもたちも保育園や幼稚園とはまた違った刺激を受けられた。
- ・内部／事業を通して、子育て世代への夕方～夜間にかけての支援を必要としている人が実際にいる、ということが分かった。また、県内外で子育て支援に携わる方や、地元の政治家からも関心を持ってもらうことができ、発展性のある事業であると感じた。

2021年度まちスポ仙台助成金 採択団体の紹介

■団体について／HApeeMolenZ プロジェクト

団体名: HApeeMolenZ プロジェクト

設立年: 2021年9月

スタッフ: 4名

普段の活動について:

介護予防講座は多々ありますが、
オーラルフレイル予防や
失禁予防は重要なのに知られていません。
2022年度も宮城県内くまなく
活動をすすめて参ります！



■申請事業について／HApeeMolenZ プロジェクト+コミュニティ

【課題】

昭和50年(1975年)代前半に開発された団地が多い地域。開発後30有余年が経過した集合団地が主で、65歳以上人口が30%を超え、高齢化とともに人口減少過疎が急速に進んでいる。高齢者ばかりの地域の中で、特有の悩みを仲間同士で打ち明け、ともに解決していく必要がある地域ともいえる。(参照:東北工業大学HP、長命ヶ丘市民センターHP)

【事業概要】

- ・全6回のイベント・講座を開催。内3回はコロナウイルス感染症の拡大に伴い、中止や延期となった。会場としてまちスポ仙台、特養まほろばの里向山、矢本東市民センターなどで開催した。
- ・参加費／無料
- ・共催団体／ひまわりの会、南中山地域包括支援センター
- ・協力団体／桜ヶ丘地域包括支援センター、虹の丘・加茂地域包括支援センター
- ・参加者数／44名(うち33名は延期中止になった)

【アクション】

当会のビジョンである”人生の最期まで美味しく食べる～モラサズだす”を楽しく叶える講座、体操、そしてお楽しみ☆布パッド製作まで一連のHApeeMolenZプロジェクトのイベントを行いました。普段、シモの悩みは誰にも言えず一人で抱えてしまっていますが、イベントで楽しむことにより仲間と本音を話す機会になったのではないのでしょうか。

【事業の成果】

- ・外部／終活事業者の方、臨床検査技師の方など、今までつながりのない業態からの参加申し込みがあった(地域包括支援センター職員、約10名からの団体参加申し込みがあった)。当事者からも直接電話で問合せがくるなど、待っていました！ととても喜んでいただいた。
- ・内部／HApeeMolenZプロジェクトをスタートし、自分たちで考案したプログラムを実施できたこと。そして地域包括支援センターをはじめ、地域内外の方々にフレイル予防・失禁予防に関心をもってもらったこと、協力してくださったことが何よりの成果。その成果により自信となった。

2021年度まちスポ仙台助成金 採択団体の紹介

■団体について／NPO法人UBUNTU

団体名：NPO法人UBUNTU

設立年：2018年11月

スタッフ：10名

普段の活動について：

理念：『誰もが自分のライフデザイナーになれる街を創ることを目指す』

自分で自分の人生を描く為には、この世の中にあるものを見て・聞いて・触れて感じる事が欠かせない。

重症心身障害児や医療的ケア児といわれる子ども達に、リアルな経験を！人として当たり前のことを当たり前に経験出来る日々を過ごす。

個性が溢れたスタッフと一緒に遊び、喜怒哀楽を心から感じる活動をしていく。



■申請事業について／手話プロジェクト

【課題】

言葉を口から発することが出来ない障害児・者とのコミュニケーションに戸惑い、1人の人間としての当たり前の関わり方が出来ず、繋がりにくい人が多い。

【アクション】

《手輪プロジェクト》

ろう者と聴者が同じ空間で、手話と文化を通じて『障害とは何か？』『コミュニケーションとは何か？』を考えるキッカケを持ち、色んな繋がりと輪を生み出す場

【事業概要】

■『手話』に触れる／音声言語以外の言語を知る／手話民話、触手話

■盲ろう者と関わろう／目が見えなくても、聞こえなくても伝わる／盲ろう者の生き立ち

■母語が手話である／“ろう者”の文化に触れてみる／ろう学校育ちと地域の小学校育ちのろう者同士の対談

■障害ってなんだろう？／「普通」って？

【事業の成果】

・外部／

①問題意識が広がる

ろう者や盲ろう者が聴者と新たに繋がることができ、手話やろう者が取り巻く問題に対して何が出来るかを話すようになる。

②ろう者が日本手話を聴者に教える実践の場となり、ろう者の孤立化を無くす可能性

③ろう者・聴者それぞれが相手に思いを伝えるためのコミュニケーション手段を考えるようになる

・内部／

①聞こえない人の居場所を作りたいと思う人と繋がる

②手輪プロジェクトのような場を求めていた参加者が多く、事業として始めるビジョンが見えた

③聴者と関係性を作ることを苦手とするろう者・ろう重複の方に必要な場の必要性を実感

2021年度まちスポ仙台助成金 採択団体の紹介

■団体について／りふdeおは梨

団体名：りふdeおは梨

設立年：2021年

スタッフ：7名

普段の活動について：

月に2～3回リフノスの会議室や公民館の会場を借りてミーティングを行っています。

コロナの状況次第ではオンラインミーティングを行いながら絵本作成のための情報収集、絵コンテ作成、文章の精査を進めて来ました。

フィールドワークの出ることもあります。

この活動には実際に皆で足を運び見聞きすることが重要なことだと認識しています。

今後も第二作目、三作目の計画があるので制作を続けて行くために資金調達の方法を模索していくことが課題。



■申請事業について／消えゆく民話の伝承、子ども達に民話を繋ぐ。

【課題】

- ・利府町に昔から伝わる民話が絵本や紙芝居という形で残っていないこと
- ・コロナ禍、かたりべさんの高齢化

【アクション】

- ・民話の聞き取り&調査
- ・絵本製作
- ・町内の幼稚園、保育園、小学校、子育て支援施設等への絵本配布

【事業概要】

- ・実施期間／2021.4.1～2022.3.3
- ・会議場所／リフノス、野中一部公民館
- ・後援団体／利府町役場、シオーモ、えぜるプロジェクト
- ・参加人数／1会議あたり7名

【事業の成果】

- ・外部／ご高齢の方にお話を伺う際、民話の他に利府町の歴史について知ることができた。地域の世代間交流の重要性を再認識することに繋がった。
- ・内部／活動を通して子育て世代の意見交換の機会が増えた。町内で活動する他の団体との交流も始まり町の活性化に繋がった。